



本ばこ

ほん

— 新刊教材・図書紹介 —

しん かん きょうざい と しょしょうかい

『ビジネスコミュニケーションのためのケース学習 職場のダイバーシティで学び合う【教材編】』

著者：近藤彩、金孝卿、ムグダヤルディー、福永由佳、池田玲子

出版社：ココ出版 (http://www.cocopb.com/)

発行年月：2013年7月 ISBN：978-4-904595-37-4

判型・頁数：B5判 122頁 定価：1,680円(税込)



日本国内でも国外でも、様々な文化や背景を持った人たちが共に働く場が増えています。そこでは、喜びと同時に誤解や摩擦が生じます。それぞれの力を発揮し、お互いを大事にしながら共に働くには、問題解決の方法を自分で考える力を持つことが大事です。

本書は、日本語を使って仕事をする(したい)人が、人間関係を上手に保ちながら、問題解決できるようになることを目指した教材です。

今後、本書に続いて「ケース学習」の概念や授業実践例などを紹介する【解説編】が出版予定です。

▽ケースを利用して考える・議論する

本書は、具体的なケース(事例)を素材にディスカッションし、自分達で解決策を考えることが「問題解決」「課題達成」の力を育成することに繋がる、との考えから作成されています。

10人のビジネスパーソンが職場での誤解やトラブルのあった体験を語る形で、ケースが挙げられています。

- 日本で働く外国人エンジニアの場合：
締め切り前に、上司が途中経過を知りたいがことに戸惑うケース。
- インド駐在中の日本人の場合：
インド人スタッフからの連絡・相談がなくて情報共有できずに困っているケース。
- 日本で働く外国人の場合：
資料を作成したときに、内容ではなく書式を細かく注意されて理解に苦しむケース。

巻末には語彙リスト(英・中・韓。ウェブ上にインドネシア語)があり、読解の補助とすることができますが、細かい内容理解に時間をかけずに、大体的内容を把握した上でディスカッションに時間を割くのも良いでしょう。ケースは全て著者達が日本、中国、インドで行ったインタビューで聞き取った事例をもとにしていますが、日本人同士でも起こり得る例ばかりです。誰もが自分の考えを持って、仲間と共によりよい解決方法を探っていくことができます。

▽タスクシートとディスカッション

各ケースに続き、タスクシートがあります。仲間とディスカッションする前に、各自で次の点について情報や考えを整理するものです。

- (1) ケースを語った当事者(私)の気持ちと相手(同僚・上司・客など)の気持ち、
- (2) 何が問題だったのか、
- (3) 自分も似たような経験があるか、
- (4) 自分が当事者だったらどのように行動するか、
- (5) もし当事者に相談されたらどうアドバイスするか。

その後、グループやペアでディスカッションをしながら、新しい考えや意見をシートに書き込んだり、気づいたことを共有したりします。ここでは、協働で問題解決を目指す過程を体験することが大事にされています。問題の答えは提示されていませんが、各ケースの最後にあるコラム「ケースの裏側」では、相手の気持ちや考え方を知り、解決のヒントとすることができます。ディスカッションの途中や最後に考えることができます。

▽教師の役割

著者は「学習者同士が討論をしながら解決策を練りだしていく授業をデザインし、支援をしていく役割」を教師は担うと述べています。学習者が自律的に話し合い、問題解決の過程を経験する手助けをするために、教師も、本書を活用した実践を通して、より良い関わり方を探っていくことになるのだらうと思います。

